

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらいくらぶ		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 15日		～ 2026年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37	(回答者数) 31
○従業者評価実施期間	2026年 1月 15日		～ 2026年 2月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 2日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	季節に合った行事に取り組んだり、保護者と交流する場を設けている	保護者参加型の行事や療育見学会の機会を設けることにより、実際の施設での様子を見ていただいたり家庭での様子など聞いたりしている	季節感を取り入れた行事の開催を通じ、保護者との信頼関係を構築しながら、情報共有に努めていく
2	保育士資格を持っている職員が多く、また実務経験が多いことから、多方面での視点からの療育を提供している	職員同士での児童の様子についての情報共有 発達段階に合わせたプログラムの提供をしている 全職員で支援方針の統一と支援についての振り返りの機会を徹底している	放課後等デイサービスの移行に向けて、地域の小学校との連携を図っていく
3	施設から近い範囲に公園や図書館、教育機関などがありプログラムや地域連携など充実している	外出の機会や地域のイベントに参加する機会を設けている	今後も地域のイベントに参加しながら、地域の子ども達と交流する機会を増やしていく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用児童の地域の広がりによって、近い範囲の区域には対応できているが、全ての家庭への対応が難しい	共働き世帯への働きかけができていない	保護者の、多様な利用ニーズ(遅い時間帯等)に応えられるよう、働き手を増やしながら職員確保に努めていく
2	異年齢児が共に過ごす中で、発達段階に応じた関わり方や環境づくりに課題がある	児童の年齢層も上がってきているため、幅広い年齢の児童に関する知識、また障がいに対する理解を深めていきたい	プログラムのレパートリーを増やしたり、空間の使い方を工夫する 支援の質の向上のため、オンライン研修や事例検討など行っていく
3	保護者同士の交流の機会が少ない	療育見学会は定期的に行っているが、保護者同士交流する機会やきょうだい児向けのイベントを開催できていない	今後は療育見学会だけでなく、保護者同士がこどもの様子や情報共有できる場を設けていく(保護者交流会など) きょうだい児向けのイベントの開催を検討していく